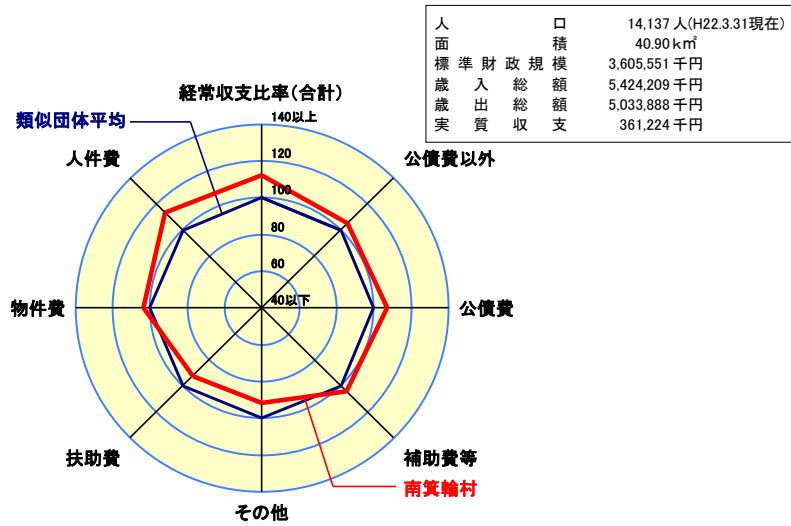
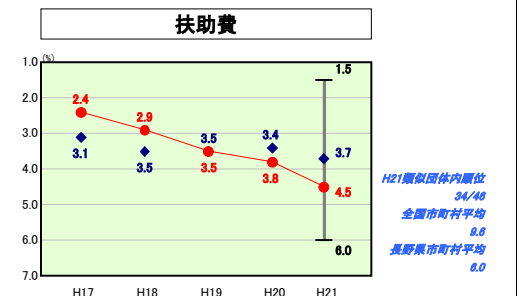
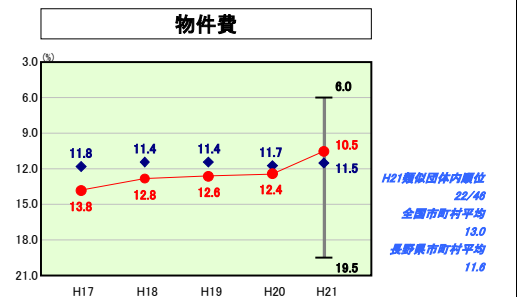
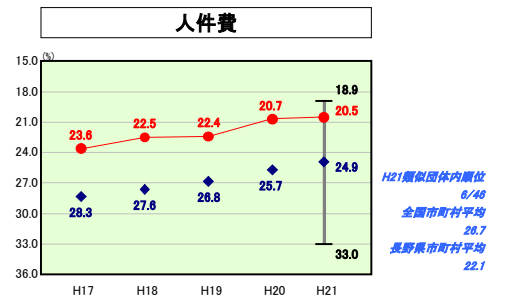
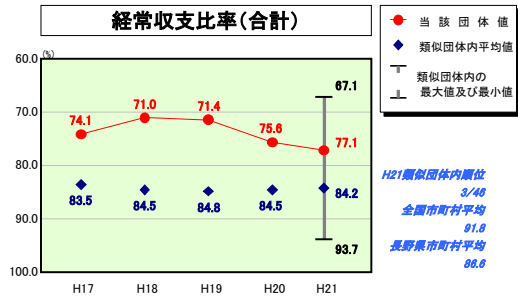


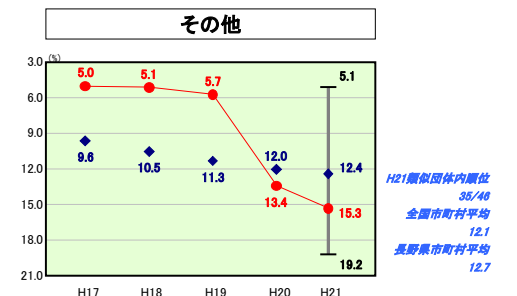
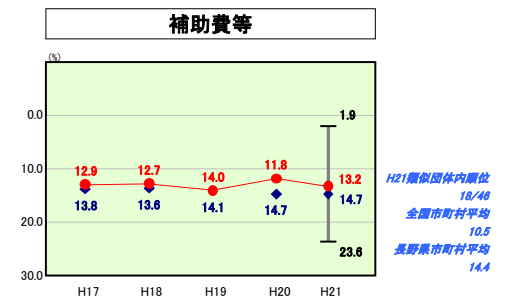
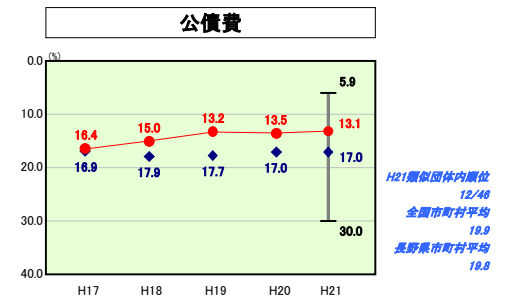
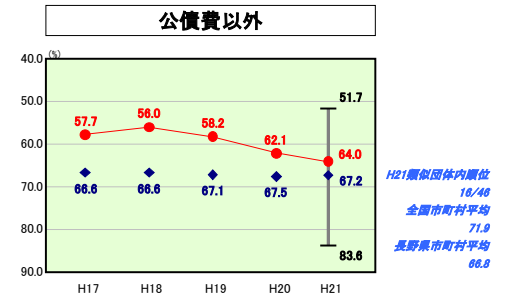
歳出比較分析表(平成21年度普通会計決算)

長野県 南箕輪村

経常収支比率の分析



人口	14,137人(H22.3.31現在)
標準財政規模	40.90km ²
歳入総額	3,605,551千円
歳出総額	5,424,209千円
実質収支	1,818,658千円



- ※1 本レーダーチャートは、当該団体と類似団体平均値より算出した偏差値をもとにチャート化したものである。(偏差値は平均を100としている。)
- ※2 当該団体の八角形が平均値の八角形より外側にあるほど、歳出抑制等により財政構造に弾力性があることを示している。
- ※3 類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

人件費: 類似団体平均と比較すると、人件費に係る経常収支比率は低くなっているが、要因として消防業務やごみ処理業務を一部事務組合で行っていることがある。今後も引き続き、人件費抑制に努める。

物件費: 平成21年度は委託料の減により類似団体平均を下回ったが、本村は他団体に比べ転入等の人口増により保育園児が多く増加傾向にあるため、それに係る臨時保育士の賃金や保育園の運営費等の比率が高い。保育士人員配置等検討し抑制に努める。

扶助費: 扶助費に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っており、当村では近年上昇傾向となっている。要因として、福祉医療給付事業や障害者自立支援法の本格施行に係る経費の増加等により膨らんできていることが挙げられる。村政の方針として「子育て・福祉・教育に優しい生活優先の村政」でやむを得ない部分もあるが、資格審査等の適正化により上昇傾向に歯止めをかけるよう努める。

補助費等: 補助費等に係る経常経費比率は、類似団体平均を下回っているが、近年は伊那中央行政組合や上伊那広域連合等一部事務組合への負担金が増加傾向であるため、補助金の見直し等も含め上昇傾向の抑制に努める。

公債費: 起債償還額より多い金額を借入しないことを予算編成の基本とし、今後も抑制に努める。

普通建設事業: 普通建設事業費の1人当たり決算額は、類似団体平均を下回っているが、これはハード事業については新規整備事業が概ね完了し、施策をソフト事業へ重点を移したことにより普通建設事業の抑制が図られている。